

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572100602
法人名	特定非営利活動法人 いきいき会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地 (電話) 0982-63-4557

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成21年1月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 8 人, 非常勤 16 人, 常勤換算	19.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉田病院・佐井医院・柴尾医院・たかはし矯正歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

誰もが安心して暮らしやすい地域社会の実現を目指し、その拠点施設として、地域との交流を図り、地域貢献に取り組んでいる。地域で、「認知症の方に対する接し方」講座を開催したり、「認知症サポーター養成講座」の取り組みをすすめている。また利用者による下校児童の「見守りパトロール」としての活動も続けている。職員は「利用者お一人お一人が背負って来られた人生のリュックの中味」を深く理解し支援していこうと努めている。利用者は穏やかな表情をされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型の理念の実践として「認知症高齢者とその家族を支える」地域貢献に尽力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価や外部評価が日々のケアの気づきを深め、毎月のケアの努力目標につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での意見や要望から、昨年末より公民館単位で認知症を理解してもらうための講座開催につながっている。今年度はさらに町社会福祉協議会と連携し町全体へ展開の予定である。運営推進会議への行政側からの参加回数が少ないので、参加へのさらなる働きかけを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時や電話、運営推進会議などで意見や要望相談を受け止め、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「見守りパトロール」のたすきをかけた利用者が地域を廻って声をかけあっており、地域で共に暮らす利用者の存在意義としては、これからもさらに期待される。自治会に加入し地域の行事にも参加し交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の思い、その人らしさを大切に「いきいきと和やかに安心して」、地域の中で過ごせる生活を支援することを目指した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実現に向けて各ユニットごとに毎月の目標を掲げ具体的なケアの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事にも参加し交流している。利用者が「見守りパトロール」のたすきをかけて地域を廻り、声をかけあっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価や外部評価が日々のケアの気づきとなり、毎月のケアの努力目標へとつながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回、家族が参加しやすいように日曜日に開催している。会議での意見や要望に応じて、「認知症のある方への接し方講座」を各地区公民館での開催につながった。新年度は町社会福祉協議会と連携し町全体に「認知症サポーター養成講座」として開催の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアサービスのためにホームからの相談連携等はなされている。		運営推進会議の参加について、さらに積極的な声かけ、相談など行い参加していただく工夫をしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況や金銭管理状況などを家族等の来訪時や電話等で随時伝え合い、また「なごみ便り(3か月毎)」でも伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や電話など、また運営推進会議においても相談や意見を伺い、サービス向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職等で利用者への心理的影響を少なくするために、常日頃全職員が連携しあって利用者一人ひとりに細やかに接するよう配慮している。		これからも管理者の意向が家族などに十分伝わることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の年間の研修計画を立て、ケアサービスに必要な研修は公務で参加しており、さらに毎月の勉強会において全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し研修や交流、他施設の見学などでサービスの質向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用開始前に自宅を訪問したりして、利用者や家族の意向を伺いながら、安心した居場所としてのホーム利用開始へとつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、掃除や散歩などの日常生活の中で利用者から昔のことや、蓬の扱い方など教わったり、生活の智慧を学んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの人生で背負ってきた「リュックの中味」を知ろうという思いで、日常の会話やケアを通して思いや意向の把握に心がけ、意向に沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等の要望等を入れながら全職員で介護計画を作り、利用者その人に全職員が統一したケアを行うようにしている。そのためにその日のどの勤務帯でも利用者全員の様子を容易に把握し、共有しケアできるような記録に工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要な時は随時行っているが、状態変化が少ない場合は6か月毎に見直している。全ての利用者のモニタリングは3か月毎に行われている。	○	状態に変化がない場合にも、月に1回はモニタリングを行い、新鮮な目で見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のふるさとを訪ねたり、買い物等利用者のなじみの関係が持続できるよう柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の望む医療が受けられるよう支援しており、緊急受診時には家族等の依頼により代行同伴している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者および家族等の意向を伺い、ホームとしての支援姿勢を説明している。		今後さらに支援体制の確立、必要な研修、関係機関との連携や共有のあり方等、実施に向けての更なる充実を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人生を尊重し、思いやりの心、ことばかけに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など利用者一人一人のペースを大切にしている。掃除ができる利用者には、できたことや、内容がわかりやすいように○をつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを入れたり、食材に菜園のものを使ったりしている。利用者はテーブルを拭いたり、片付けなどできることをしている。職員の一人が共に食べ、他はお世話をしている。	○	職員全員が、利用者と同じものを一緒に食べられるように工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒む人にもタイミングを見ながら、楽しい入浴であるように支援している。現在は午前中の中の入浴であるが、長年の習慣を尊重し午後入浴が叶うようにしたいと、家族の協力など検討している。	○	入浴が利用者の生活リズムで午後や夜間など好みの時間でかなうよう工夫してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を尊重して園芸や畑仕事など楽しめるよう様々に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、菜園の手入れや収穫、地区の行事に参加したり戸外生活を楽しんでいる。「見守りパトロール」も外出の機会となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を十分認識している。できるだけ鍵をかけないようにしているが、利用者の不穏状態に応じてやむなく施錠している。	○	地域の方々の見守り協力がさらに得られ、鍵をかけない方向に取り組むしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定しての避難や通報訓練を消防団や隣人の協力を得て行っている。職員は、火を出さないように、万一の場合特に夜の避難口を常に意識しながら日々過ごしている。		利用者の「見守りパトロール」が地域にホームの存在感を強め、災害時の住民の協力がさらにつながっていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、食べる量や水分量の確保に努めている。体重測定を月に2回行っている。		献立について、栄養量など一度栄養士等の助言を得る機会をつくってほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光の中、畳の居間もあり、好みに応じた場所でそれぞれ過ごされている。利用者と職員のやりとりの声が茶の間の語らいとして、おだやかな雰囲気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長年親しみ、使い慣れたものが持ち込まれ、それぞれ個性ある居室になっている。		